

Ⅱ 調査結果（県全体）

1. 幸福感について

【問1-1】現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つだけ）

とても												とても
不幸												幸せ
0点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10点		

（日ごろ感じている幸福感について）

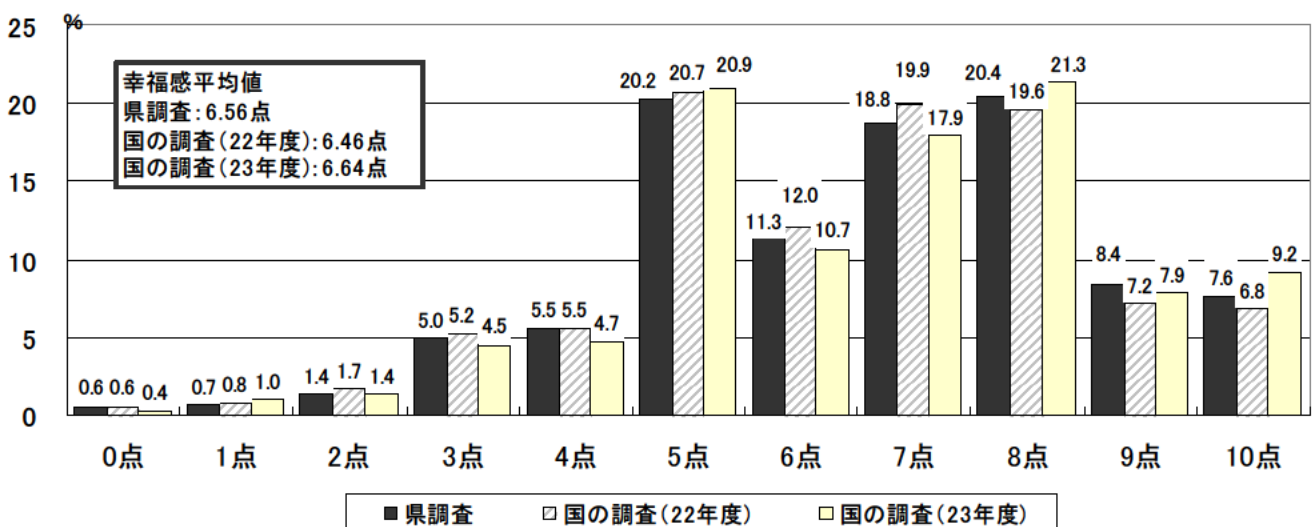
日ごろ感じている幸福感（以下、「幸福感」と記載）について、内閣府の国民生活選好度調査（以下、「国の調査」と記載）の質問に準じ、10点満点で質問したところ、平均値は6.56点となっている。

分布をみると、「8点」が20.4%と最も高く、次いで「5点」が20.2%、「7点」が18.8%となっており、M字曲線を描いている。

国の調査（22年度）の平均値は6.46点となっており、「5点」が20.7%と最も高く、次いで「7点」（19.9%）、「8点」（19.6%）となっている。

なお、内閣府経済社会総合研究所が新たに平成24年3月に実施した「第1回生活の質に関する調査」においても同様の質問をしており、その結果によれば、幸福感の平均値は6.64点となっている。

図表 2-1-1 日ごろ感じている幸福感の平均値と分布(国の調査との比較)



※国の調査は、15歳以上を対象としていることや、調査員が調査票を配布、回収する訪問留置法であることなど、本県の調査方法と異なる点がある。

※国の調査（22年度）…平成22年度国民生活選好度調査（内閣府、平成23年3月実施、n=3,569）

※国の調査（23年度）…第1回生活の質に関する調査（内閣府経済社会総合研究所、平成24年3月実施、n=6,451）

【問1-2】幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

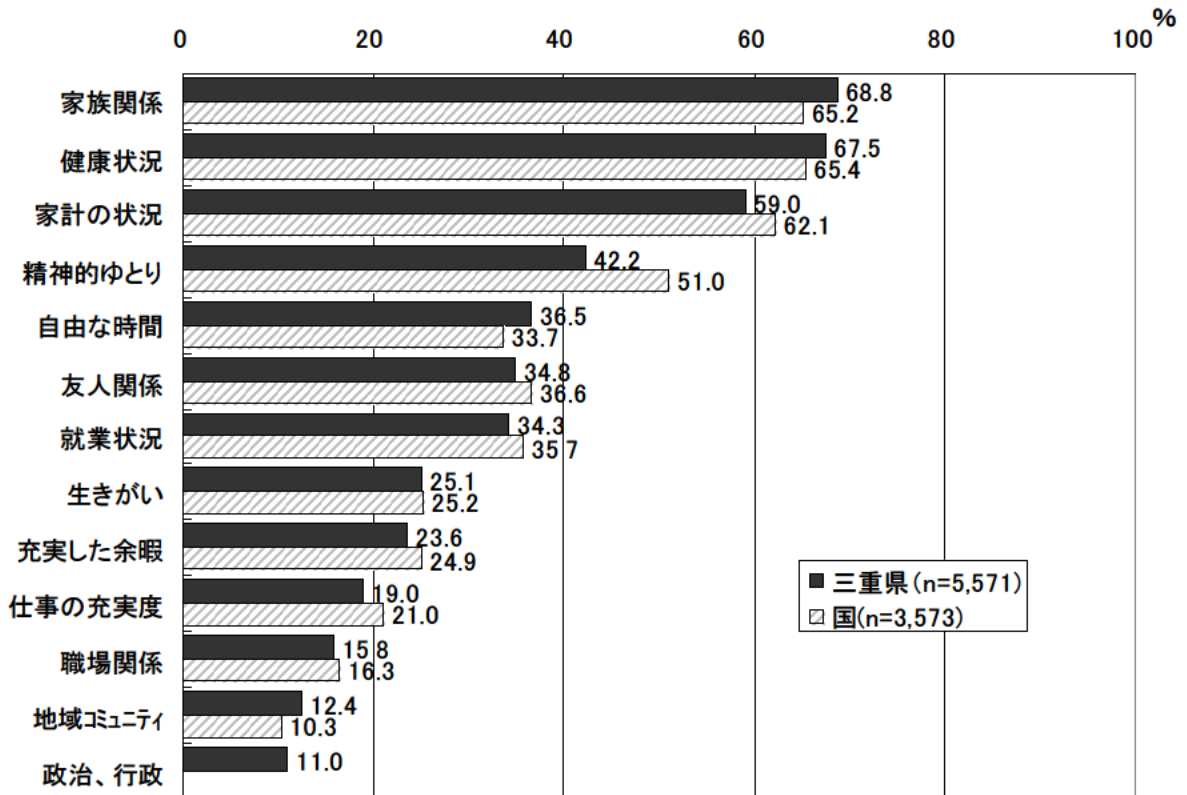
1	家計の状況(所得・消費)	8	趣味、社会貢献などの生きがい
2	就業状況(仕事の有無・安定)	9	家族関係
3	健康状況	10	友人関係
4	自由な時間	11	職場の人間関係
5	充実した余暇	12	地域コミュニティとの関係
6	仕事の充実度	13	政治、行政
7	精神的なゆとり		

(幸福感を判断する際に重視した事項について)

幸福感を判断する際に重視した事項では、「家族関係」が68.8%と最も高く、次いで「健康状況」(67.5%)、「家計の状況(所得・消費)」(59.0%)、「精神的なゆとり」(42.2%)となっている。

国の調査によると、「健康状況」が65.4%と最も高く、次いで「家族関係」(65.2%)、「家計の状況」(62.1%)となっている。国の調査と比較すると、重視した事項に大きな差はみられないが、「家計の状況(所得・消費)」、「精神的なゆとり」などの割合は三重県調査の方が国の調査よりやや低くなっている。

図表 2-1-2 幸福感を判断する際に重視した事項[複数回答](国の調査との比較)



※国の調査…平成22年度国民生活選好度調査(内閣府、平成23年3月実施)。なお、「政治、行政」の選択肢はない。

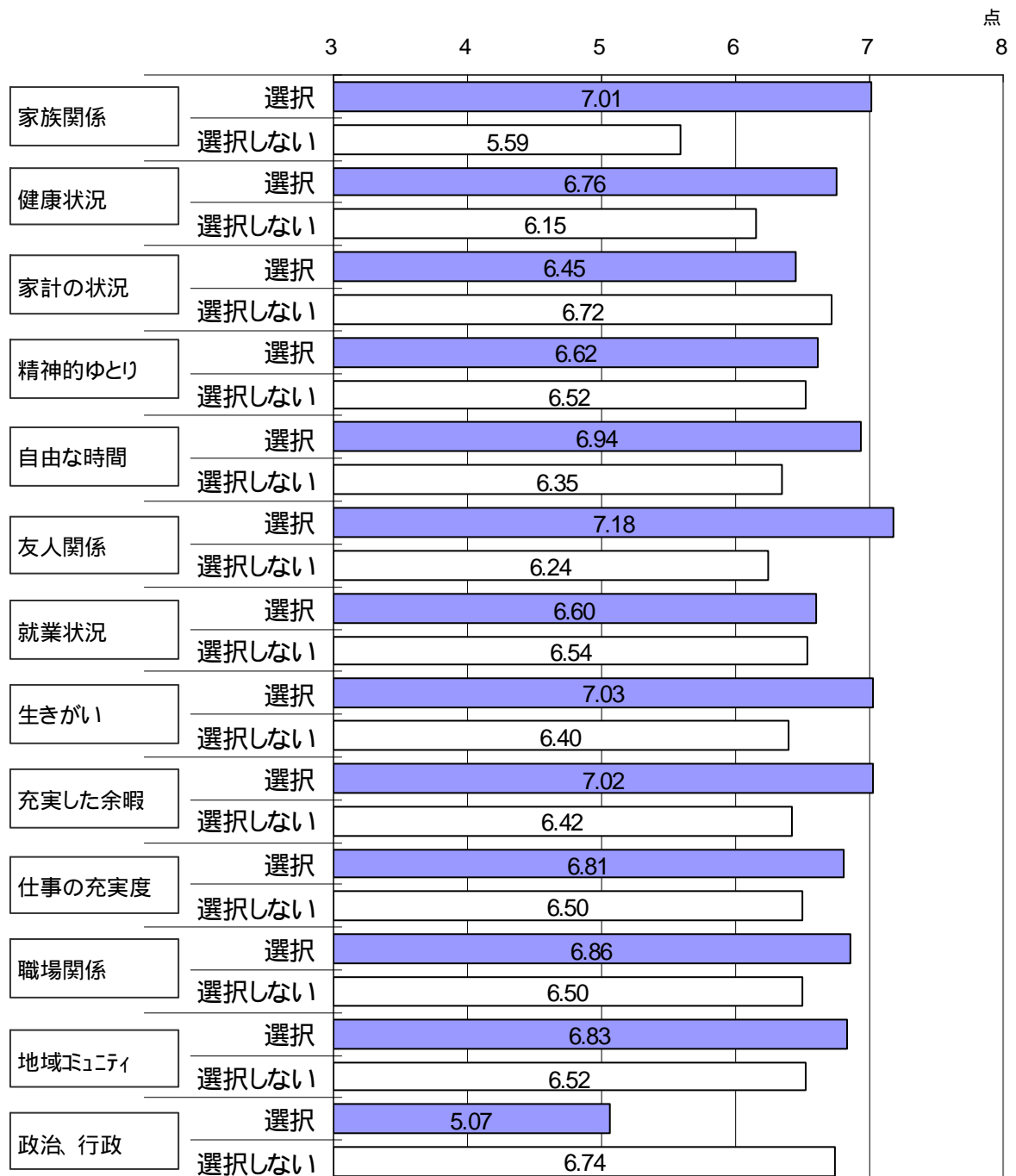
※「第1回生活の質に関する調査」(内閣府経済社会総合研究所、平成24年3月実施)にこの質問は含まれていない。

(幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係について)

幸福感を判断する際に重視した事項について、選択した人の幸福感の平均値と、選択しなかった人の幸福感の平均値を比較したところ、「家族関係」が最も差が大きく、選択した(重視する)人は7.01点で、選択しなかった(重視しない)人(5.59点)より1.42点高くなっている。

また、「家計の状況(所得・消費)」と「政治、行政」の2項目について、選択した(重視する)人は選択しなかった(重視しない)人より幸福感は低くなっている。

図表2-1-3 幸福感を判断する際に重視した事項を選択した人と選択しない人の幸福感の平均値



2. 地域や社会の状況について

【問2】地域や社会の状況について、あなたの実感をおうかがいします。

次の(1)から(16)までの16の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

- (1) 災害等の危機への備えが進んでいると感じますか。
- (2) 必要な医療サービスが利用できていると感じますか。
- (3) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせていると感じますか。
- (4) 必要な福祉サービスが利用できていると感じますか。
- (5) 身近な自然や環境を守る取組が広がっていると感じますか。
- (6) 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できていると感じますか。
- (7) 子どものためになる教育が行われていると感じますか。
- (8) 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じますか。
- (9) スポーツを通じて夢や感動が育まれていると感じますか。
- (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。
- (11) 文化芸術や地域の歴史等について学び親しむことができると感じますか。
- (12) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。
- (13) 県内の産業活動が活発であると感じますか。
- (14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。
- (15) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。
- (16) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。

() 選択肢はいずれの質問も下記の通りです。

1 感じる 2 どちらかといえば感じる

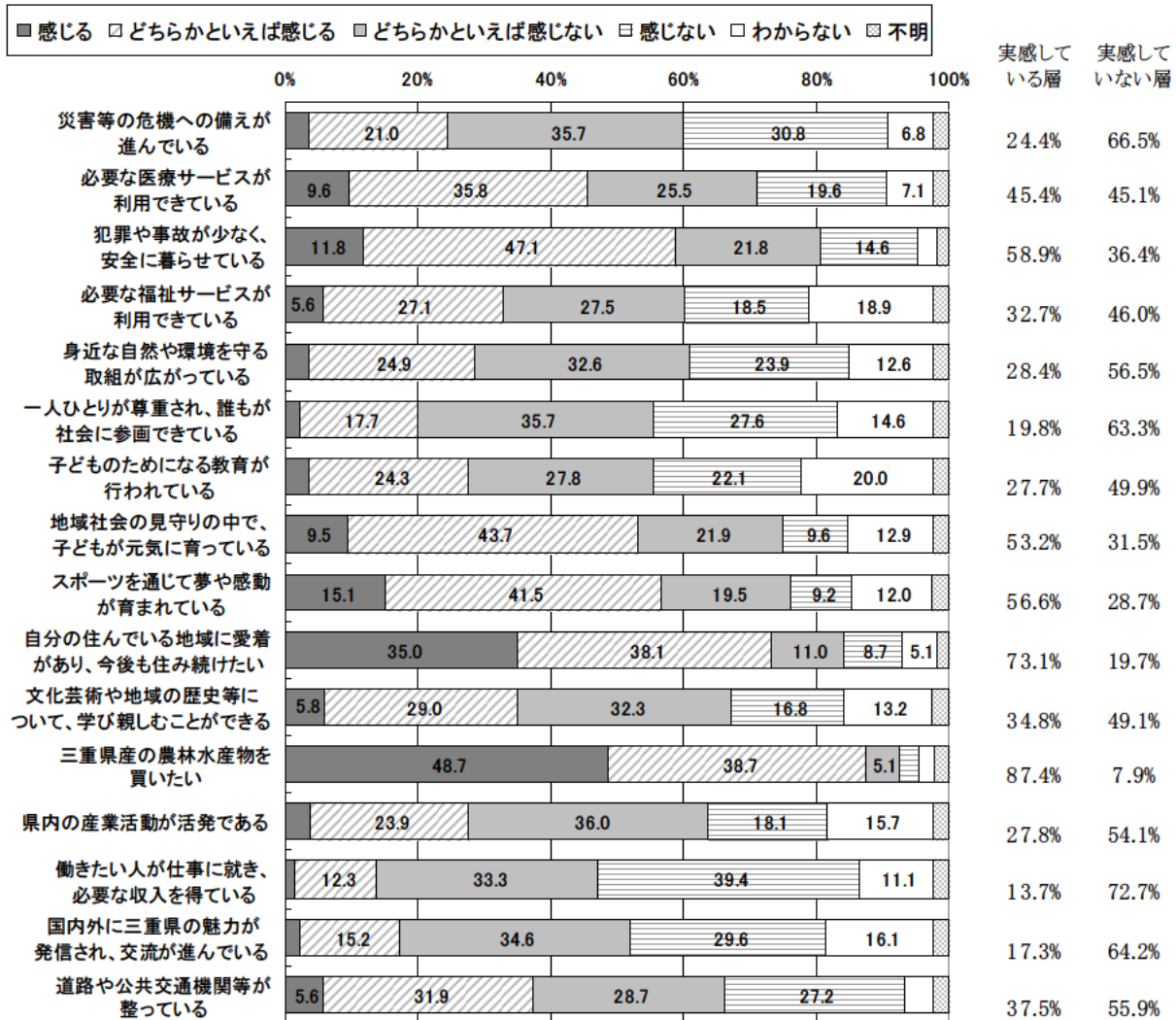
3 どちらかといえば感じない 4 感じない 9 わからない

「みえ県民カビジョン」に掲げる政策分野ごとの16の「幸福実感指標」に基づいて地域や社会の状況について実感を聞いたところ、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は、『三重県産の農林水産物を買いたい』が87.4%と最も高く、そのうち、「感じる」も48.7%と最も高くなっている。次いで『自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい』(73.1%)、『犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている』(58.9%)の順となっている。

一方、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合は、『働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている』が72.7%と最も高く、そのうち、「感じない」も39.4%と最も高くなっている。次いで『災害等の危機への備えが進んでいる』(66.5%)、『国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる』(64.2%)の順となっている。

※下の図表2-2-1に記載の「実感している層」の割合は、「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を合計したものであり、「実感していない層」の割合は、「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を合計したものである。

図表 2-2-1 地域や社会の状況について(項目別)



3. 日ごろの暮らしについて

【問3】あなた自身の日ごろの暮らしについて、実感をお聞かせください。

次の(1)から(12)までの12の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

(1) 自由な時間はありますか。

- 1 ある 2 どちらかといえばある
3 どちらかといえばない 4 ない 9 どちらともいえない

(2) 余暇は充実していますか。

- 1 充実している 2 どちらかといえば充実している
3 どちらかといえば充実していない 4 充実していない 9 どちらともいえない

(3) 健康だと思いますか。

- 1 健康だと思う 2 どちらかといえば健康だと思う
3 どちらかといえば健康だと思わない 4 健康だと思わない 9 どちらともいえない

(4) 仕事は充実していますか。

- 1 充実している 2 どちらかといえば充実している
3 どちらかといえば充実していない 4 充実していない 9 どちらともいえない

(5) 生きがいにしているものはありますか。

- 1 ある 2 どちらかといえばある
3 どちらかといえばない 4 ない 9 どちらともいえない

(6) 精神的なゆとりはありますか。

- 1 ある 2 どちらかといえばある
3 どちらかといえばない 4 ない 9 どちらともいえない

(7) ご家族との関係は良好ですか。

- 1 良好である 2 どちらかといえば良好である
3 どちらかといえば良好でない 4 良好でない 9 どちらともいえない

(8) いざという時に相談できる友人や知人はいますか。

- 1 いる 2 どちらかといえばいる
3 どちらかといえばいない 4 いない 9 どちらともいえない

(9) 職場での人間関係は良好ですか。

- 1 良好である 2 どちらかといえば良好である
3 どちらかといえば良好でない 4 良好でない 9 どちらともいえない

(10) ご近所付き合いや、地域での活動(自治会、青年団、子供会など)はされていますか。

- 1 している 2 どちらかといえばしている
3 どちらかといえばしていない 4 していない 9 どちらともいえない

(11) 日常生活を営むうえで必要な収入はありますか。

- 1 ある 2 どちらかといえばある
3 どちらかといえばない 4 ない 9 どちらともいえない

(12) あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。

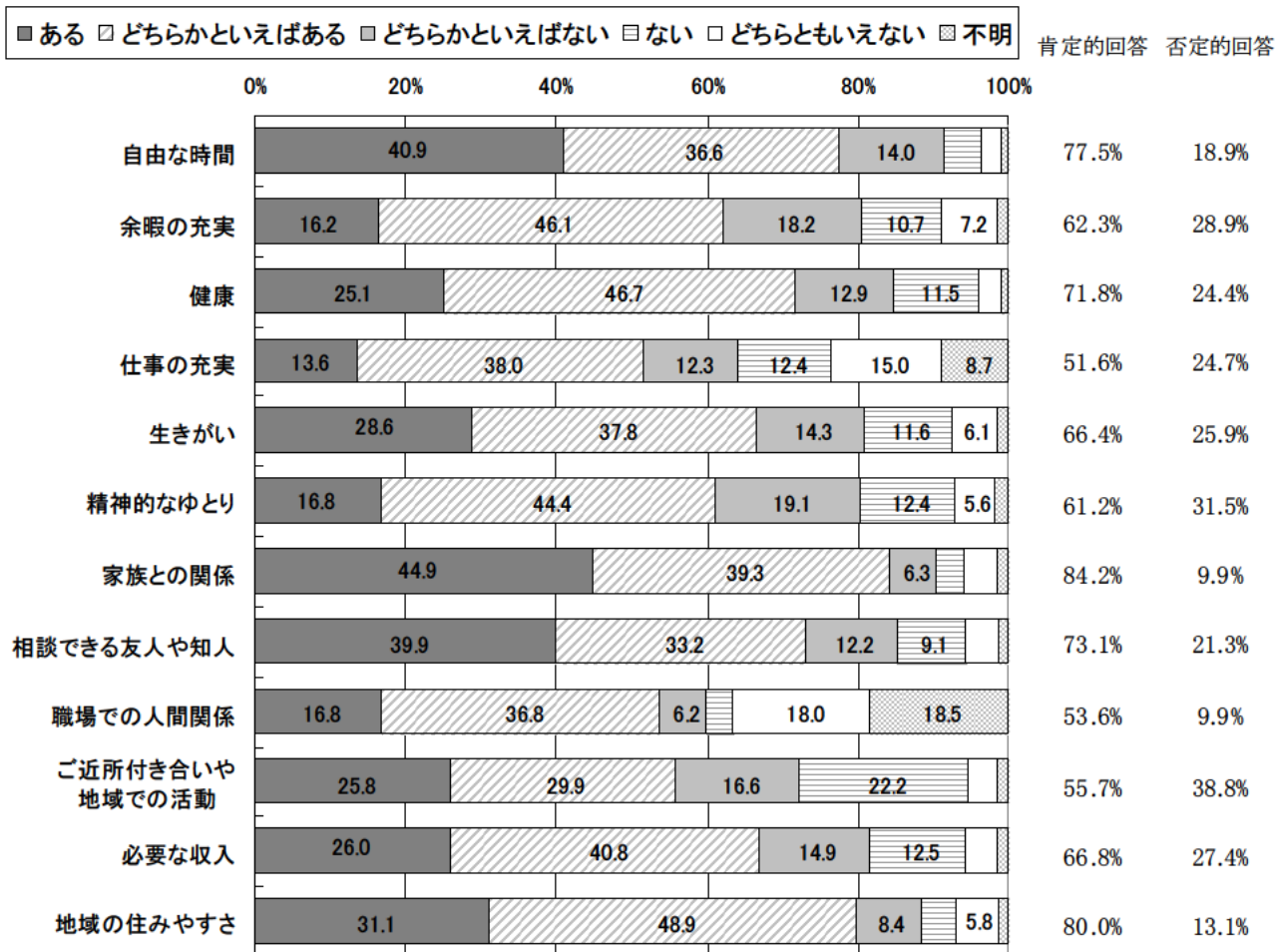
- 1 住みやすい 2 どちらかといえば住みやすい
3 どちらかといえば住みにくい 4 住みにくい 9 どちらともいえない

日ごろの暮らしについての12項目の実感を聞いたところ、肯定的回答の割合は『家族との関係』が84.2%と最も高く、そのうち、「良好である」も44.9%と最も高くなっている。次いで『地域の住みやすさ』が80.0%と高く、『自由な時間』、『健康』、『相談できる友人や知人』も7割以上と高くなっている。

一方、否定的回答の割合は『ご近所付き合いや地域での活動』が38.8%と最も高く、そのうち、「していない」も22.2%と最も高くなっている。次いで『精神的なゆとり』が31.5%と高く、『余暇の充実』、『必要な収入』、『生きがい』も25.0%以上となっている。

※1 問3の選択肢は項目によって異なるため、下記の通り、「ある」、「どちらかといえばある」、「どちらかといえばない」、「ない」を代表的なものとして表記した。
 肯定的回答
 ・「ある」は、「している」、「良好である」、「思う」、「いる」、「住みやすい」を含む。
 ・「どちらかといえばある」は、「どちらかといえばしている」、「どちらかといえば良好である」、「どちらかといえば思う」、「どちらかといえばいる」、「どちらかといえば住みやすい」を含む。
 否定的回答
 ・「ない」は、「していない」、「良好でない」、「思わない」、「いない」、「住みにくい」を含む。
 ・「どちらかといえばない」は、「どちらかといえばしていない」、「どちらかといえば良好でない」、「どちらかといえば思わない」、「どちらかといえばいない」、「どちらかといえば住みにくい」を含む。
 ※2 下の図表2-3-1に記載の肯定的回答は、「ある」と「どちらかといえばある」の割合を合計したものであり、否定的回答は、「ない」と「どちらかといえばない」の割合を合計したものである。

図表 2-3-1 日ごろの暮らしについて(項目別)



今回の調査では、個別テーマに関する質問として、「食の安全・安心」、「観光振興」、「地球温暖化対策」も合わせてお聞きしています。

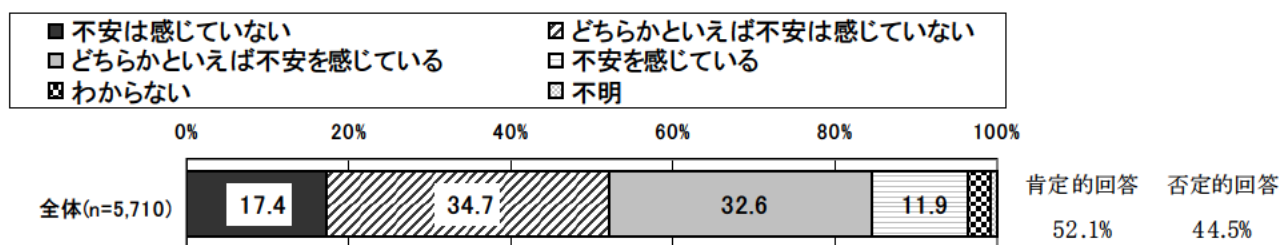
4. 食の安全・安心について（個別テーマ）

【問4-1】あなたは、食品の安全性について、普段どう感じていますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

食品の安全性について、普段どう感じているかを質問したところ、「不安は感じていない」と「どちらかといえば不安は感じていない」を合計した割合が52.1%となっており、「不安を感じている」と「どちらかといえば不安を感じている」を合計した割合（44.5%）よりやや高くなっている。

※下の図表2-4-1に記載の肯定的回答は、「不安は感じていない」と「どちらかといえば不安は感じていない」の割合を合計したものであり、否定的回答は、「不安を感じている」と「どちらかといえば不安を感じている」の割合を合計したものである。

図表2-4-1 食品の安全性について

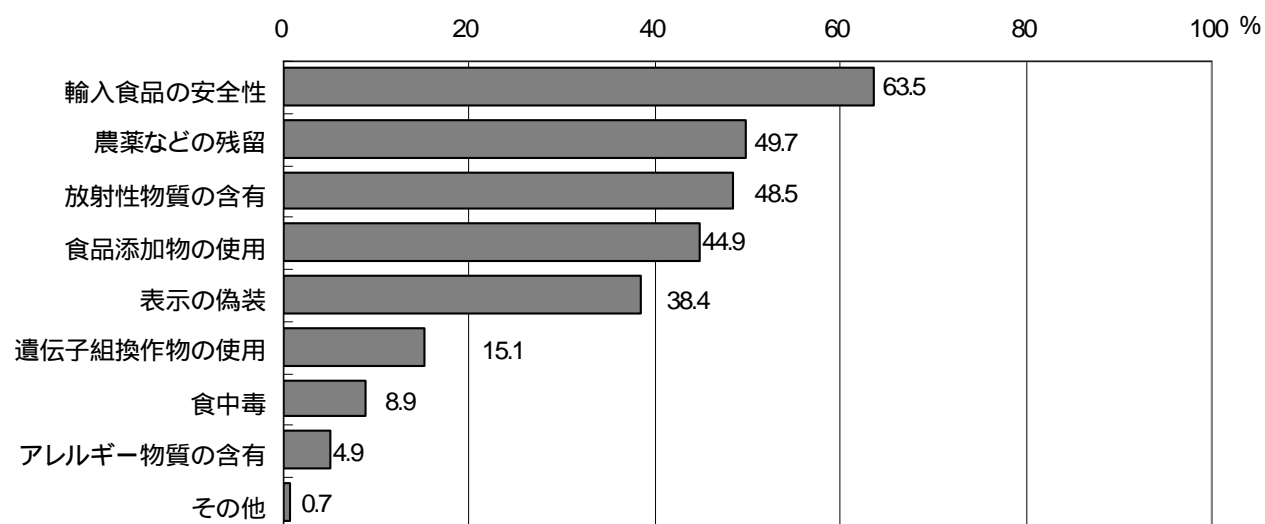


【問4 - 2】(問4 - 1で、「どちらかといえば不安を感じている」、「不安を感じている」と答えた方のみ)

あなたは、食品の安全性について、どのような不安を感じていますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(は3つまで)

食品の安全性について感じる不安の内容は、「輸入食品の安全性」が63.5%と最も高く、次いで「農薬や動物用医薬品(抗生物質など)の残留」(49.7%)、「放射性物質の含有」(48.5%)、「食品添加物の使用」(44.9%)となっている。

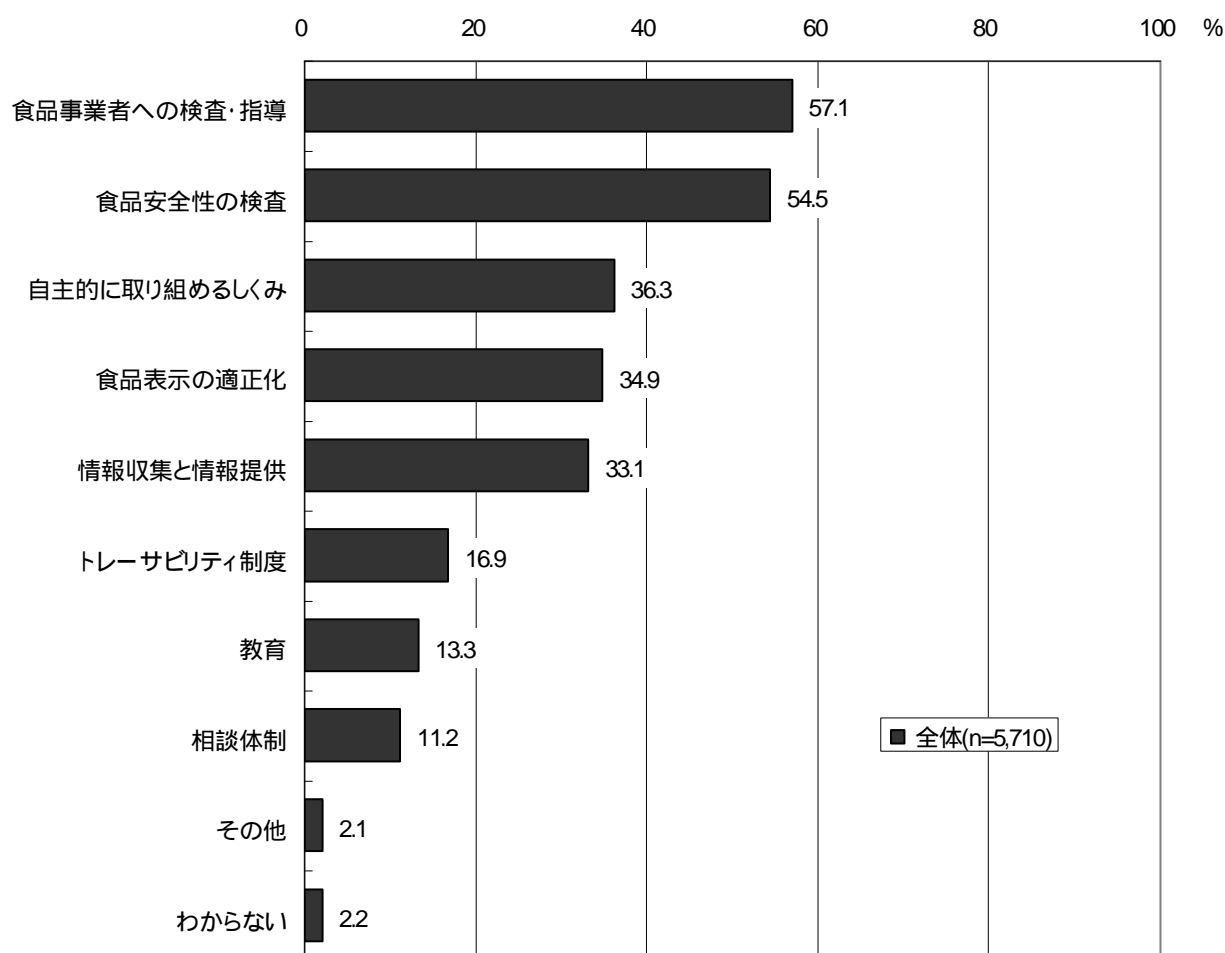
図表2-4-2 食品の安全性について感じる不安(複数回答)



【問4 - 3】あなたが食品の安心を得るために、行政に期待する取組はどれですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(は3つまで)

食品の安心のために行政に期待する取組については、「食品の生産・加工・販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」が57.1%と最も高く、次いで「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」(54.5%)、「生産者などが食の安全・安心の確保に自主的に取り組めるしくみ(みえの安心食材表示制度など)を推進する」(36.3%)となっている。

図表2-4-3 食品の安心を得るために、行政に期待する取組(複数回答)



5. 観光振興について（個別テーマ）

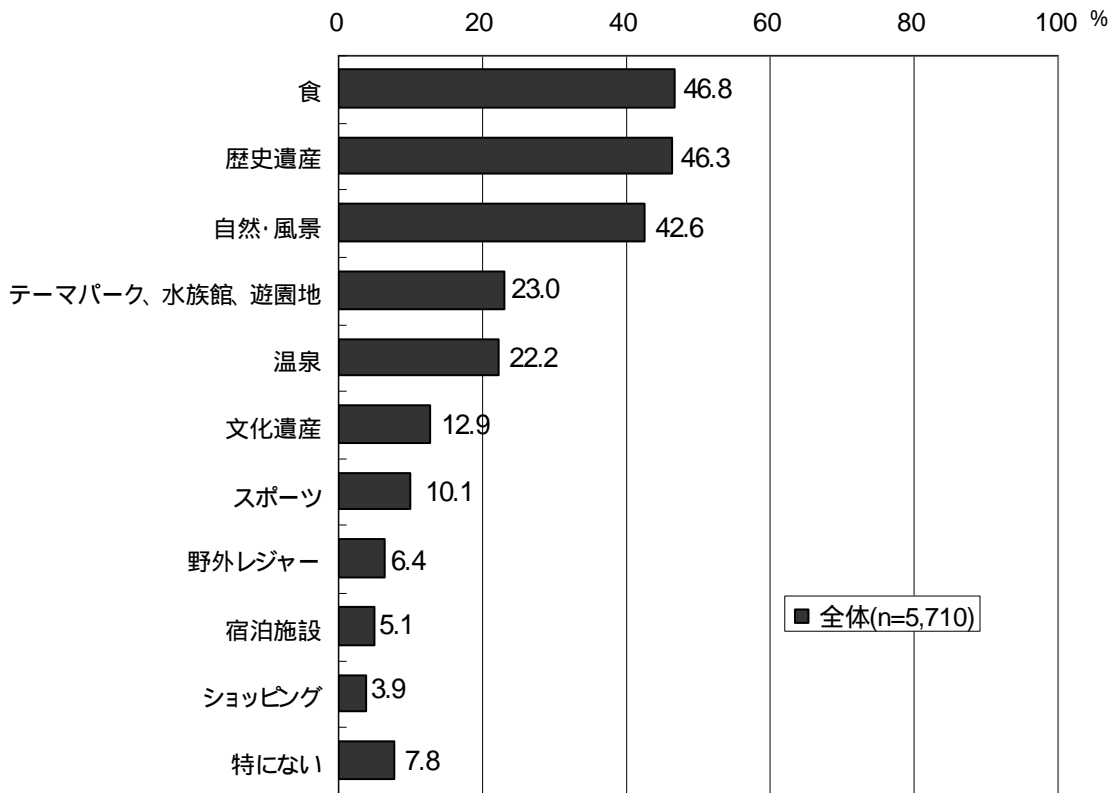
【問5 - 1】あなたが県外の友人等に勧めたいと思う三重県の観光施設や観光資源はどのようなものですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。（は3つまで）

また、 をつけた項目の中で、特に勧めたいと思う観光施設や観光資源があれば、〔 〕に具体例をご記入ください。

県外の友人等に勧めたいと思う三重県の観光施設や観光資源については、「食（海の幸や山の幸）」が46.8%と最も高く、次いで「歴史遺産（城下町、宿場町、神社・仏閣、史跡など）」（46.3%）、「自然・風景（山・川・海）」（42.6%）となっている。

具体例では、「歴史遺産」が最も多く、伊勢神宮のほか、熊野古道や関宿などが挙げられている。次いで、松阪牛や海産物などの「食」、伊勢志摩や御在所（ロープウェイ含む）などの「自然・風景」となっている。

図表2-5-1 県外の友人等に勧めたい三重県の観光施設や観光資源（複数回答）



図表2-5-2 県外の友人等に勧めたい三重県の観光施設や観光資源の具体例（複数回答）

歴史遺産(城下町、宿場町、神社・仏閣、史跡など)	1,815	自然・風景(山・海・川)	1,211
うち 伊勢神宮	1,287	うち 伊勢志摩	172
うち 熊野古道	65	うち 御在所(ロープウェイ含む)	102
うち 関宿	61	うち 熊野古道	95
食(海の幸や山の幸)	1,390	テーマパーク、水族館、遊園地	1,048
うち 松阪牛	297	鳥羽水族館	278
うち 伊勢志摩の海産物・海鮮料理	179	ナガシマスパーランド	248
うち 海産物	108	ナガシマリゾート	117

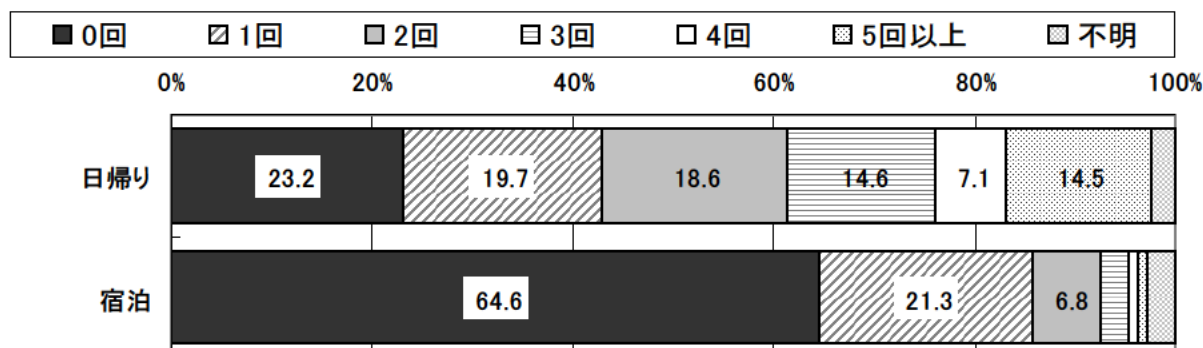
【問5-2】あなたは、この1年間に日帰りで観光・レジャー・レクリエーションの目的で県内の各観光地（観光施設）を、どのくらい訪れましたか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。1日に2カ所以上訪れた場合も1回と数えてください。（〇は1つだけ）

【問5-3】あなたが、この1年間に宿泊をともなって観光・レジャー・レクリエーションの目的で県内を旅行した回数はどのくらいですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。2泊3日以上の場合も1回と数えてください。（〇は1つだけ）

1年間に日帰りで観光・レジャー・レクリエーションの目的で県内の観光地（観光施設）を訪れた回数は、「0回」が23.2%で最も高く、次いで「1回」（19.7%）、「2回」（18.6%）となっている。

また、1年間に宿泊をともなって県内を旅行した回数は、「0回」が64.6%と突出して高く、次いで「1回」の21.3%、「2回」の6.8%となっている。

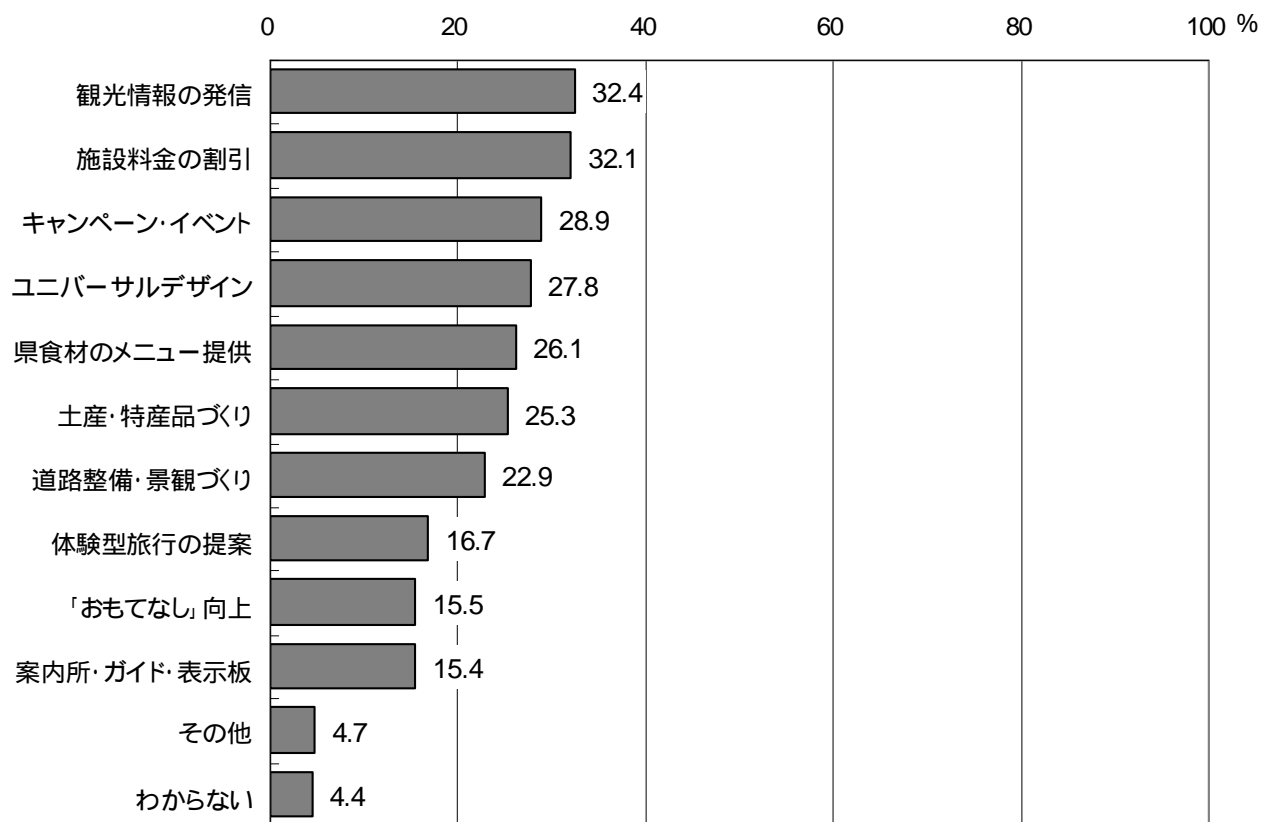
図表 2-5-3 県内の観光地（観光施設）へ訪れた回数



【問5 - 4】もっとたくさんの人に、県内の観光地を訪れてもらうためには、どのような取組が必要と思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。
(は3つまで)

もっとたくさんの人に、県内の観光地を訪れてもらうために必要な取組について質問したところ、「ホームページやパンフレットを活用した観光情報の発信」が32.4%で最も高く、次いで「施設の利用料金の割引(クーポンなど)」(32.1%)、「観光キャンペーンや誘客イベントの実施」(28.9%)となっている。

図表2-5-4 もっとたくさんの人に、県内の観光地を訪れてもらうための取組(複数回答)



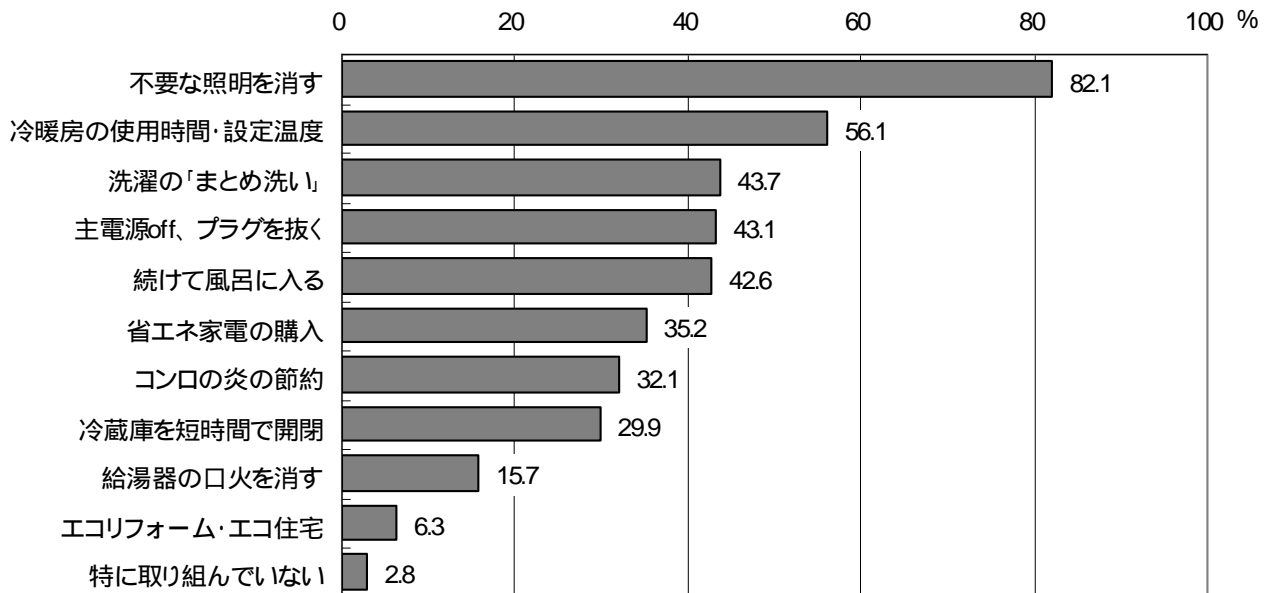
6. 地球温暖化対策について（個別テーマ）

【問6 - 1】以下の取組は、地球温暖化の防止に役立つと考えられています。
 あなたが、日常生活のなかで実践している地球温暖化対策の取組についておたずねします。あなたが積極的に取り組んでいるものはどれですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。（はいいくつでも）

日常生活のなかで実践している地球温暖化対策の取組については、「不要な照明はこまめに消す」が82.1%と最も高く、次いで「冷暖房時は使用時間や設定温度に気をつける」(56.1%)、「洗濯はできるだけ「まとめ洗い」をする」(43.7%)となっている。

また、「特に取り組んでいない」は2.8%となっている。

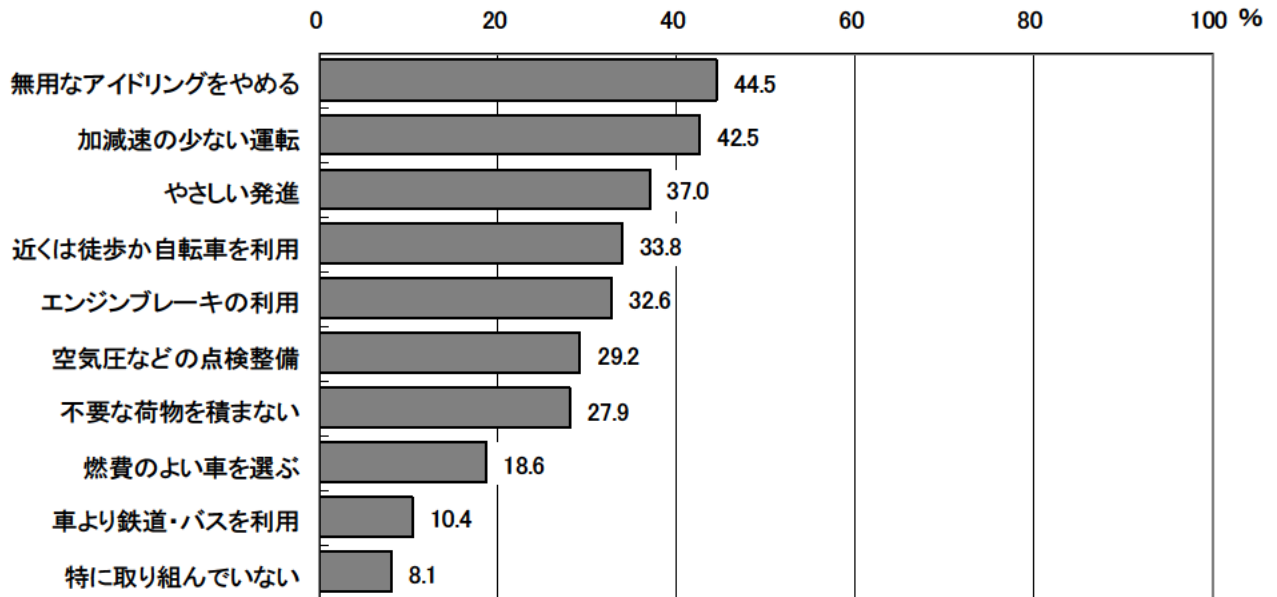
図表2-6-1 日常生活のなかで実践している地球温暖化対策のための取組(複数回答)



【問6 - 2】あなたが、自動車を利用するなかで実践している地球温暖化対策の取組についておたずねします。あなたが積極的に取り組んでいるものはどれですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。（はいいくつでも）

自動車を利用するなかで実践している地球温暖化対策の取組については、「駐車時や停車時に無用なアイドリングをやめる」が44.5%と最も高く、次いで「車間距離に余裕をもって加減速の少ない運転をする」(42.5%)、「ふんわりアクセルでやさしい発進をする」(37.0%)となっている。

図表 2-6-2 自動車を利用するなかで実践している地球温暖化対策のための取組〔複数回答〕

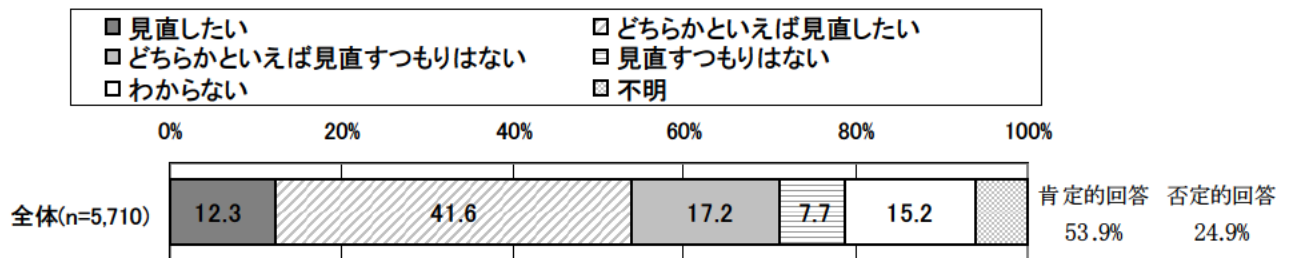


【問6-3】地球温暖化を防止するためには、今の生活の仕方（ライフスタイル）を見直さなければならないという考え方がありますが、あなたはご自身のライフスタイルについてどのようにお考えですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

地球温暖化を防止するためにライフスタイルを見直すかどうかについては、「見直したい」と「どちらかといえば見直したい」を合計した割合が 53.9%で、「見直すつもりはない」と「どちらかといえば見直すつもりはない」を合計した割合（24.9%）より高くなっている。

※下の図表 2-6-3 に記載の肯定的回答は、「見直したい」と「どちらかといえば見直したい」の割合を合計したものであり、否定的回答は「見直すつもりはない」と「どちらかといえば見直すつもりはない」の割合を合計したものである。

図表 2-6-3 地球温暖化防止のためにライフスタイルを見直すことについての考え方



【問 6 - 4】家庭から排出される温室効果ガスの排出量は、1990 年度に比べて 2008 年度では、約 2 割増加しており、温室効果ガスの排出削減が進んでいない現状があります。家庭での取組が進まない要因として、あなたはどのような理由があると思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。(はいくつでも)

家庭における温室効果ガスの排出削減に向けた取組が進まない理由を質問したところ、「地球温暖化防止にどれくらい効果があるのかわからないから」が 50.5%と最も高く、次いで「具体的に何をしてもよいかかわからないから」(37.3%)、「企業や行政などが、県民より先に行動を起こすべきだと思うから」(31.2%)となっている。

図表 2-6-4 家庭で温室効果ガスの排出削減の取組が進まない理由(複数回答)

